

厚生労働科学研究費補助金
難治性疾患政策研究事業
分担研究報告書

急性帯状潜在性網膜外層症に関する調査研究

研究分担者 九州大学・大学院医学研究院・教授 園田 康平
三重大学・大学院医学系研究科・教授 近藤 峰生
東京女子医科大学・医学部・教授 飯田 知弘
研究協力者 東京慈恵会医科大学眼科学教室・准教授 林 孝彰

研究要旨:急性帯状潜在性網膜外層症(acute zonal occult outer retinopathy, AZOOR)は眼底には目立った所見を示さず、急激に視力低下や視野欠損を生じる網膜疾患である。現時点では原因も不明であるが、AZOORは決して稀な疾患ではなく、一般の眼科医が疾患を正しく理解し診断するためのガイドラインが必要であった。現在我々はこれまでの文献や専門家の意見を参考にして、厚生労働省網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班を中心として、診断ガイドラインを作成し、アンケート調査により本邦での患者数の把握を行った。今後は本疾患事業の適切な方向性を追求していくことが大切である。

A. 研究目的

AZOORは、1992年にGassが提唱した比較的新しい疾患概念である。若年女性に好発し、光視症を伴って急激な視野欠損で発症し、網膜外層を傷害することがわかっている。我々はまず診断基準・重症度分類を作成し、診療ガイドラインを日本眼科学会雑誌に掲載した。令和2年度患者数調査を行ったが、令和3年度はその成果を出版物にまとめた上で、AZOOR疾患事業の今後の方向性を決定する。

B. 研究方法

AZOORの実態を調査するために、令和2年度全国965施設にアンケートを送り患者数を調査した。

(倫理面への配慮)

個人情報の特特定されないアンケート調査であり、倫理的問題は生じない。

C. 研究結果

637施設から回答を得た(回答率66%)。その結果、年間AZOORの発症数は200強名

であった。過去に報告されている AZ00R の患者数を合わせて、現在日本に 1000 人強の患者がいることが判った。

同時に AZ00R は片眼性が多く、また罹病眼の視力が 0.3 以下になる割合は 6%である。将来的に疾患レジストリを構築・難病指定を目指す疾患とするかについては、再考する必要がある。一方、AR00R の予後不良例に自己免疫網膜症の範疇に入る臨床症状を呈するものがあり、自己免疫網膜症の一部として重症例を考えることも重要と思われた。

D. 考察

診療ガイドライン作成により可能となった疫学調査等を基に、治療法開発に向けた臨床研究や予後予測に有用な臨床情報の収集が可能になると思われる。この成果を学会誌に今後発表予定である。

E. 結論

現在日本に 1000 人強の患者がいる

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし